

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	弥富市新庁舎	階数	地上6F
建設地	愛知県弥富市前ヶ須町335番地 他	構造	SRC造
用途地域	第1種住居地域	平均居住人員	200 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,205 時間/年
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年1月 予定	評価の実施日	2018年10月15日
敷地面積	10,759 m ²	作成者	千葉裕紀
建築面積	4,432 m ²	確認日	2018年10月15日
延床面積	14,546 m ²	確認者	山本一成



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

標準計算: 30%☆☆☆☆ 60%☆☆☆☆ 80%☆☆☆☆ 100%☆☆☆☆ 100%超:☆☆

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

0 46 92 138 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.8

音環境: 3.6, 温熱環境: 3.1, 光・視環境: 4.3, 空気質環境: 4.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

機能性: 3.3, 耐用性: 3.2, 対応性: 3.6

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.8

生物環境: 1.0, まちなみ: 4.0, 地域性: 3.0

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

建物外皮の: 4.0, 自然エネ: 4.0, 設備システ: 4.0, 効率的: 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

水資源: 3.8, 非再生材料の: 3.8, 汚染物質: 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

地球温暖化: 3.4, 地域環境: 2.6, 周辺環境: 3.1

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.4</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積) 18.1 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積) 0.0 %</p>	
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.6</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料> なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし</p>	

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4)地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属物面積}}$ × 100

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数		
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 騒音								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音								
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
1 室温								
2 外皮性能								
3 ゾーン別制御性								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
1 昼光率								
2 方位別開口								
3 昼光利用設備								
3.2 グレア対策								
1 昼光制御								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
4 空気環境								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質								
4.2 換気								
1 換気量								
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮								
4.3 運用管理								
1 CO ₂ の監視								
2 喫煙の制御								
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応								
3 バリアフリー計画								
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観								
2 リフレッシュスペース								
3 内装計画								
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計								
2 維持管理用機能の確保								
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震								
1 耐震性								
2 免震・制振性能								
2.2 部品・部材の耐用年数								
1 躯体材料の耐用年数								
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔								
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔								
4 空調換気ダクトの更新必要間隔								
5 空調・給排水配管の更新必要間隔								
6 主要設備機器の更新必要間隔								
2.4 信頼性								
1 空調・換気設備								
2 給排水・衛生設備								
3 電気設備								
4 機械・配管支持方法								
5 通信・情報設備								
3 対応性・更新性								
3.1 空間のゆとり								
1 階高のゆとり								
2 空間の形状・自由さ								
3.2 荷重のゆとり								
3.3 設備の更新性								
1 空調配管の更新性								
2 給排水管の更新性								
3 電気配線の更新性								
4 通信配線の更新性								
5 設備機器の更新性								
6 バックアップスペースの確保								

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q3 室外環境(敷地内)										
1 生物環境の保全と創出	独自③	1.0	0.30	-	-	-	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④	4.0	0.40	市のシンボルとして景観やまちなみへ配慮した外観計画	-	-	-	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮										
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④	3.0	0.30	-	-	-	-	-	-	3.0
3.2 敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	-	-	-	-	3.0
3.2 敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	-	-	-	-	3.0
LR 建築物の環境負荷低減性										
LR1 エネルギー										
エネルギー										
1 建物外皮の熱負荷抑制		4.0	0.23	BPI _m =0.81	-	-	-	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用		4.0	0.22	エコボイドの設置	-	-	-	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化		4.0	0.33	-	-	-	-	-	-	4.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)		4.0	1.00	BEI _m =0.84	-	-	-	-	-	4.0
集合住宅の評価(3c)		-	-	-	-	-	-	-	-	-
4 効率的運用										
集合住宅以外の評価		3.0	0.22	-	-	-	-	-	-	3.0
4.1 モニタリング		3.0	1.00	-	-	-	-	-	-	3.0
4.2 運用管理体制		3.0	0.50	-	-	-	-	-	-	3.0
集合住宅の評価		-	-	-	-	-	-	-	-	-
4.1 モニタリング		-	-	-	-	-	-	-	-	-
4.2 運用管理体制		-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル										
1 水資源保護										
1.1 節水		3.8	0.15	-	-	-	-	-	-	3.8
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		4.0	0.40	節水型衛生器具	-	-	-	-	-	4.0
1 雨水利用システム導入の有無		3.6	0.60	雨水利用設備あり	-	-	-	-	-	3.6
2 雑排水等利用システム導入の有無		4.0	0.67	-	-	-	-	-	-	4.0
2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	-	-	-	-	3.0
2 非再生性資源の使用量削減										
2.1 材料使用量の削減		3.8	0.63	-	-	-	-	-	-	3.8
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.07	-	-	-	-	-	-	3.0
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	-	-	-	-	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	3.0
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	② 独自	5.0	0.20	再生クワツヤラン(地業、舗装路盤)、再生アスファルト(舗装)、ビニル系床	-	-	-	-	-	5.0
2.5 持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.05	-	-	-	-	-	-	3.0
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	5.0	0.24	評価する取組3項目	-	-	-	-	-	5.0
3 汚染物質含有材料の使用回避										
3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-	-	-	-	-	3.0
3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.68	-	-	-	-	-	-	3.0
1 消火剤		-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	-	-	-	-	3.0
3 冷媒		3.0	0.50	-	-	-	-	-	-	3.0
LR3 敷地外環境										
1 地球温暖化への配慮										
1 地球温暖化への配慮	①	3.4	0.33	ライフサイクルCO2概算値:90%	-	-	-	-	-	3.4
2 地域環境への配慮										
2.1 大気汚染防止		2.6	0.33	-	-	-	-	-	-	2.6
2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.25	-	-	-	-	-	-	3.0
2.2 温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-	-	-	-	-	2.0
2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.5	0.25	-	-	-	-	-	-	3.5
1 雨水排水負荷低減	独自	3.0	0.25	-	-	-	-	-	-	3.0
2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-	-	-	-	3.0
3 交通負荷抑制	独自	5.0	0.25	駐輪場、駐車場を確保、複数出入口により周辺に配慮	-	-	-	-	-	5.0
4 廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-	-	-	-	3.0
3 周辺環境への配慮										
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.1	0.33	-	-	-	-	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	-	-	-	-	3.0
1 騒音	独自	3.0	0.50	-	-	-	-	-	-	3.0
2 振動	独自	3.0	0.50	-	-	-	-	-	-	3.0
3 悪臭		-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	-	-	-	-	3.0
1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	-	-	-	-	3.0
2 砂塵の抑制		-	-	-	-	-	-	-	-	-
3 日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	-	-	-	-	3.0
3.3 光害の抑制		3.7	0.20	-	-	-	-	-	-	3.7
1 屋外照明及び屋内照明のつら外に漏れる光への対策		4.0	0.70	光害チェックリストを満たす。屋外広告物照明なし。	-	-	-	-	-	4.0
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	-	-	-	-	3.0

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.4
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.4	0.10	
② 資源の有効活用				3.6
Q2-2	耐震性・信頼性	3.2	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.10	外構緑化:18.1%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	「市民の生活を守り、まちの活力を創出する、みんなが集う庁舎づくり」をコンセプトとし、想定される地震や津波等に対する安全確保、環境への配慮、長寿命化、ユニバーサルデザイン、市民の利便性向上等、安心安全で市民に愛される庁舎づくりを目指す。
Q1 室内環境	Low-E複層ガラスの採用、断熱性能の強化、庇による日射遮蔽等により、日射負荷を抑制すると共に視・光環境に配慮する。また、F☆☆☆☆建材を全面的に採用し、全館禁煙とするなど、室内空気質環境にも充分配慮している。
Q2 サービス性能	天井高及び階高を高く設定し、心理的な快適性に配慮している。また、壁長さ比率を小さくすることで空間にゆとりをもたせ、将来的なレイアウト変更にも十分対応できる計画としている。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地や建物の配置計画に応じた適切な植栽計画により、潤いある緑地づくりを行っている。開かれた市庁舎として視線を遮らない低木の配置により、防犯性も高めた計画としている。また、これらの緑地環境は周辺地域へ資すると共に良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー	断熱材、Low-E複層ガラス等により熱負荷を低減。また、LED照明を採用するなど設備システムの高効率化を図っている。
LR2 資源・マテリアル	節水便器や自動水栓など水資源を保護する機器を積極的に採用するほか、再生材料を積極的に採用し、環境へ配慮した計画としている。
LR3 敷地外環境	LCCO2排出量を90%とするなど地球温暖化へ配慮した計画としている。また、広告物照明を行わない、適切な駐輪場・駐車場を確保するなど周辺へ配慮した計画としている。
その他	